

群 教 セ	F09 - 01
	平17.231集

# 互いに認め合える集団を目指して

—— 人間関係づくりに視点を当てて ——

特別研修員 立見 昌枝（高崎市立寺尾小学校）

## 《 研究の概要 》

本研究は、不登校の予防的・開発的な取組として「ほっとルーム」の機能を生かし、コミュニケーショントレーニングや子育て支援セミナーなどにより、自分や他人を見つめそれぞれの違いを理解し、互いに存在を認め合える集団を目指したものである。又、総合的な学習の時間で国語の「話す・聞く」との関連が課題となっている本校では、その基礎となる他者を認め互いに向上し合う5年生の学年・学級集団づくりを目指したものである。

**キーワード** 【教育相談 ほっとルーム コミュニケーション 子育て 総合的な学習の時間】

### I 主題設定の理由

本校は、高崎市の市街地より少し離れた広々とした田園が広がる中にある。

校区内には、約3,600世帯、人口約9,000人が暮らしており、37年前に片岡小学校より分かれた学校であり、古くから住んでる土着の地域と新たに宅地化された地域とが混在している。

このような中、児童は一見のびのびと過ごしているが、核家族化や少子化による児童をとりまく人的環境の変化で、大人たちも人間関係が希薄で複雑な中で試行錯誤しながら子育てに取り組んでいる。しかし、愛情のかけ方が、個人主義が優先され、成績が良ければよい、周りの人に迷惑をかけなければよい、という形で表現され、近所や周りとのかかわりについて交流をもとうという雰囲気は薄い。また、我が子かわいさの余り細部にまで手をかけ、それが児童の自主性や社会性の発達を阻害しているようにもみられる。子どもたちは、大人の目を意識し、「良い子」と思われたい気持ちが強く、子ども本来の快活さや素直さ、無邪気さなどが押し殺されているように思われる。クラスの雰囲気は、意欲的に表現することを好まず、思っていることを積極的に大勢の前で表現しないで「よい子」を演じている傾向が強い。又、集中して話を聞けず発言できない子や、友達の前で恥をかくことを恐れ、消極的な活動になってしまう子どももいる。又、友人関係において他人の状況を思いやれず自分のことを優先させるあまりトラブルを起こす子や、言葉での表現が思うようにい

かず、スキンシップを好み触れ合っているうちに、トラブルになってしまうケースもある。このような状況の中、自分の思いを素直に表現し、さらに相手にいやな気持ちにさせない表現方法を身に付けることが課題であると考えた。

又、本校は今年度、校内研修において「総合的な学習の時間」の県の発表を控えている。国語の「話すこと、聞くこと」との関連を重視した発表を考えており、発表の場面では、自分の立場や根拠を明らかにして意見を述べることを課題となっている。「総合的な学習の時間」の発表場面を成功させるためにも本研究がその礎になると考えた。

そこで、ほっとルームの機能を生かし、互いに認め合える人間関係づくりを支援していくことを本研究の主題とした。

### II 研究のねらい

対人関係能力を高めるためにコミュニケーショントレーニングや対人関係ゲームを計画的に実施する。さらに、表現活動を組み込み、自分の気持ちを表現させていくことで、安心して表現できる場、それを裏付ける価値観の違う人間を受け入れられる場面の提供をしていく。

又、保護者との連携を効果的に取り、保護者間のより良いネットワークを築く事で児童に対しても豊かな人的環境を整えることになると考える。以上の両面から、互いに認め合える人間関係づくりをねらいとして研究を推進する。

### Ⅲ 研究の見通し

#### 1 「ほっとルーム」の基本的考え

本校での「ほっとルーム」とは、人間関係づくりを柱に、児童・保護者に対しては、情報発信と交流の場として、さらに、児童に対しては、表現活動を組み込む事で相互に信頼関係を築く場として中核的な役割を果たすよう運営するものとする。(図1)

##### (1) 人間関係づくり

人間関係づくりとは、各種コミュニケーショントレーニングや対人関係づくりのゲームなどの実施や子育て支援セミナーの実施とそれらの実施に

伴う教師間の連携ととらえた。

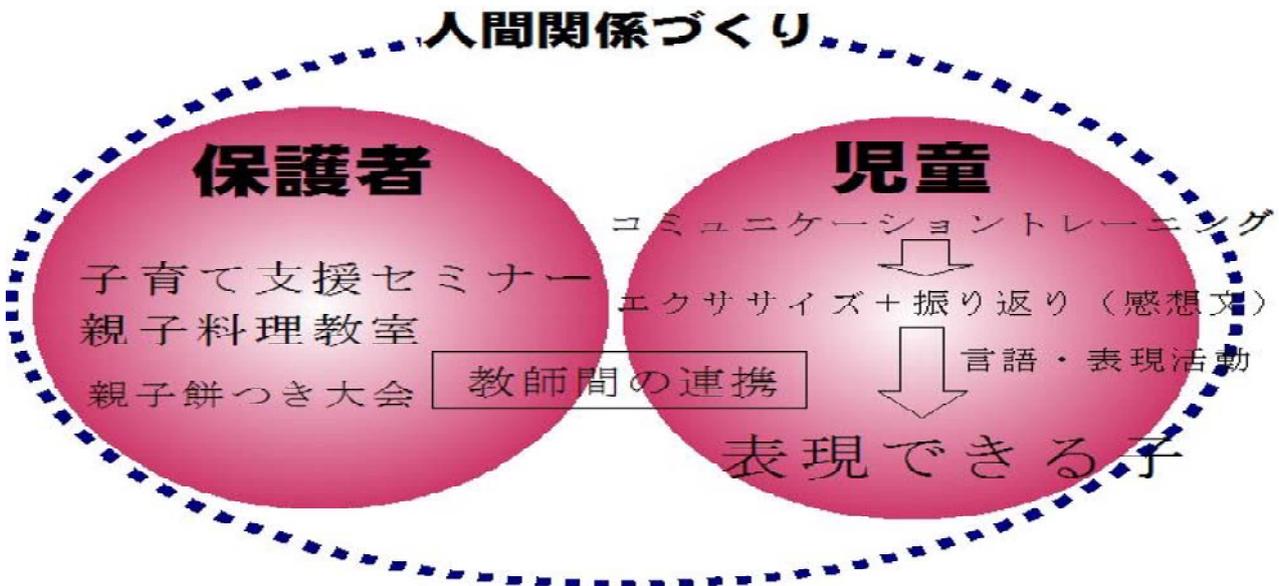
##### ア 保護者との連携

保護者との連携にかかわり、まず保護者の子育てにかかわる悩みをアンケートで聞き、保護者の悩みに沿ったポイントで子育て支援セミナーを実施していく。それに伴ってセミナー実施後の検証場面として親子料理教室を実施し、子どもと保護者のより良いかかわりの実践の場を提供する。

##### イ 児童に対して

コミュニケーショントレーニングや、対人関係ゲームを計画的に実施し併せて表現活動を組み込んでいくことにより、互いに認め合える学級の集団づくりを行う。

図1 ほっとルームの基本的考え方



### Ⅳ 研究計画

月	児童に対して	保護者に対して
5	コミュニケーショントレーニング1 (ねえねえ、聞いて)	
6	コミュニケーショントレーニング2・3 (時と場合・うまく伝わるかな?)	子育て支援セミナーアンケート実施 子育て支援セミナーの実施
7	対人関係ゲーム じゃんけんゲーム・くまがり1	
9	コミュニケーショントレーニング4	
10	対人関係ゲーム くまがり2	
11	コミュニケーショントレーニング5 対人関係ゲーム くまがり3	親子料理教室 対人関係ゲーム
12	「総合的な学習の時間」発表	
1		親子餅つき大会

## V 研究の内容

### 1 保護者との連携

#### (1) 子育て支援セミナー (対象：保護者)

実施日 6月30日 出席率 約64%

##### ア テーマ

十代のスタート地点で大切なこと

前思春期の我が子とのかかわり方のポイント

- ① ゆれている我が子の内面を察知しましょう。
- ② 近づこうとしてきた時はかかわりを持ち、自分でやろうとしている時は見守りましょう。

##### イ 展開

#### ① ウォーミングアップ

グループ分け (バースデーライン)

- ことばは使わずに、身振り手振りを使い、自分の誕生日日順に並ぶ。

#### ② 課題場面のロールプレイを見る。

いつもは、素直で明るいトモ君が、学校から帰ってきました。ところが今日は何だかいつもと違う様子です。帰って来るなり、ランドセルを放り投げ、いきなりマンガ本を読み始めました。「ただいま」のあいさつも言いません。おまけにスナック菓子を見つけて食べ始める。母親に何を言われても言う事を聞きません。さて、こんなときあなたは、どうしますか？

#### ③ 話し合い

- a この劇を見てどう思いますか？  
4人のグループごとに話し合って下さい。
- b 子どもの気持ちはどうでしょう。
- c 自分がこの子の母親だったらどうかかわったら良いと思いますか？

##### ウ 保護者感想

- 改めて、子育ては大変だと思いました。子供の変化に気付けるように自分も心のゆとりをもつことが大事だと思いました。
- 今日参加できて良かったと思いました。十代の初めに子どもの心の発達について目を向けてやりたいと思いました。我が子に心を傾けてあげられれば良いと思いますし、そうしたいと思います。本当によいことを学ばせて頂きありがとうございました。
- 子育てに大変役に立つセミナーでした。同年代の子どもをもつお母さん達と意見や情報が交換でき、自分の子育てを振り返る良い機会となりました。何より、子どもの立場に立って物事を考えることを昨今忘れていたこと

に今日は、気づかされました。先生方ありがとうございました。

##### エ 教師のまとめ

始めは、緊張感をもった保護者の方々であったが、45分間の中でとても前向きに対応をしていた。同世代の子どもをもつ親として、よりよく育てていきたいという気持ちはどの家庭においても同じであると痛感した。教師のロールプレイでの演技も気持ちを和ませるためには有効であったと思われる。また、4名という少数での話し合いは、より身近に問題を受け止め考える手だてにもなった。総数56名の児童であるがそのうち36名の保護者が参加してくれた。

#### (2) 親子料理教室 (対象：児童・保護者)

実施日 11月13日 出席率 保護者約75%

##### ア ねらい

総合的な学習の時間に「食」について調べたり学んだりしたことを基にして、よりよい朝食の提案をし、保護者や班のメンバーと協力して実際に調理して味わう。

##### (ア) ほっとルーム的価値

児童は、5年生で米飯やみそ汁の実習をする予定であるが、事実上学習前の段階であった。

その状況下で、自分たちの朝食にふさわしい献立を考え、計画をし、協力して調理実習をする。そこで、親の協力を得て実践に結びつけたいと考えた。実習場面では、親の子に対するかかわり方が顕著に反映するであろうし、多数の保護者のかかわり方の中から自分のかかわり方を振り返ることができると思った。又、子どもにできることは、やらせても良いことに気付いたり、保護者にとって提案している子どもに、このような朝食を毎日食べさせているか振り返ったりできると考えた。

##### イ 保護者の感想

- 子どものふだん見られない姿が見られて良かったです。家庭で、もう少し一緒に食事の支度をしたいと思います。少し準備不足のところがあり話し合いがきちんとできていないように感じました。無事においしくできて良かったです。
- 料理教室ではお世話になりました。買い出しや準備ではどうなるか心配でしたが当日は、班のみんなと協力しながら上手に作れた様子です。子どもたちがとても真剣に取り組んでいる姿が見られて良かったです。ふだんなかなかできないことを経験させていただき

ありがとうございます。この機会に家で作っても良いかもしれませんね。

- メニューから、料理をする手順や担当（役割分担）まで子どもたちが話し合っていて決めて、それを実行して、料理が完成して、子どもたちは満足したことと思います。私はあまり手伝うこともなく子どもたちが作る料理を見ながら、家でもたまには煮干しから“だし”をとっておみそ汁を作ろうと思って、その日の夕方煮干しを買いました。
- 自分たちで献立を考え計画を立てて上手に調理できたと思います。なるべく手を出さずわからない時だけ教えてあげるように心がけていました。家でも早速みそ汁をひとりで作ってくれました。とてもおいしくできました。
- 平日の授業参観に参加できないため日曜日の行事は時間がゆっくりとれ、又、お母様たちとのコミュニケーションができありがたいと思います。

#### ウ 教師のまとめ

この実践で児童も成長し、保護者も体験から自分の子どもへの接し方を学ぶ良い機会だと考える。6月に行ったセミナーでのポイントを生かし自分本意な接し方だけでなく広く様々な保護者の接し方から学ぶ良いチャンスになったと思う。感想からも子どもとのかかわりについて変化が見られ有意義な活動になったと思う。

## 2 児童の人間関係づくり

### (1) コミュニケーショントレーニング

ア 気持ちのいい「話し方」や「聞き方」について考える（ねえねえ、聞いて） 6月22日

(ア) ねらい

3つの会話を聞いて、気持ちのいい「話し方」や「聞き方」について考える。

(イ) 展開

- ① 2人が話をしていて、ことばのやりとりを聞いて気がついたことを書きましよう。

- A あしたは遠足、うれしいよね。
- B 1 そんなにうれしいの？
- B 2 うん、うれしい！
- B 3 まあね。
- A おかし、何買おうかなあ
- B 1 ばっかみたい。
- B 2 チョコ買うんだ。
- B 3 はあ？

A わたし（ぼく）はラムネを買おう。

- B 1 あんなのどこがいいの。
- B 2 ゼリーもおいしいよね。
- B 3 ふうん。

A ねえ、いっしょに買いに行こう。

- B 1 自分で行けばー
- B 2 うん、いいね。行こう。
- B 3 う、うん。

- ② 2人のやりとりを聞いて良い会話とはどんな事か考えましよう。

(ウ) 児童の感想

- 人が嫌になる言葉や楽しくさせる言葉がよくわかった。人を嫌にさせると自分も少し嫌になってくる。リアクションが薄くてもちょっと寂しくなってくる。だからB 2のやりとりはいいと思った。だから自分もB 2のようなやりとりができればいいなと思った。
- 今日の活動で一つ一つ言うことを大事にしようと思った。人が言うと、悪く感じるけどよく考えてみたら言ったことがあるような言葉も出てきた。自分が言うかわからないけど人が言うと相手はすごく嫌な気持ちになっていたんだと思った。
- 人の気持ちをよくする言葉遣いをしたいと思う。1回人の気持ちになってから言ったり、動いたりしたいと思う。言葉使いがよいと、友達もできるし話す相手が気持ちよくなるから、身に付けたいと思った。

イ 時と場合に応じたふさわしい言葉に気付く（時と場合） 6月29日

(ア) ねらい

同じ言動でも、ふさわしい場合とそうでない場合があることに気付く。

(イ) 展開

- ① 同じことを言っても、その人がどのような気持ちで言ったかによって、答え方はちがってきますね。今日はそのことを考えてみましょう。
- ② 次のそれぞれの場合において、ふさわしい言い方を考えてみましょう。
  - a 給食当番の配膳中に、おかずをこぼした子に
    - ◎ その子がふざけていた場合・・・
    - ◎ その子は一生懸命やっていたが、つまずいてよろけてしまった場合・・・
  - b 「あの子と遊んじゃだめ」と言った子に
    - ◎ あの子が意地悪ばかりする場合・・・
    - ◎ あの子はおとなしくて、誤解されやすい人だ

った場合・・・

③ 逆の言い方で伝えると、どうなるでしょうか。

(ウ) 児童の感想

- 少し言い方を変えるだけで、相手の気持ちもずいぶんと変わることがわかった。嫌なことをされた時でも優しく言い方も優しい言い方にすれば嫌なことをした相手でも「優しくなろう」という気持ちになれると思う。
- いつも意地悪をしている人でも良いところは必ずあると言うことがわかった。がんばってやった失敗は、特にやさしい言い方が大切という事がよくわかった。
- そのときと場合などで返す言い方が違うんだなと思いました。
- 意地悪でも絶対良いところはあるんだから仲間はずれにしちゃかわいそうだなあと思いました。

ウ 見た事を言葉だけで伝えることで大切な事(うまく伝わるかな?) 7月13日

(ア) ねらい

視覚映像を言葉だけで表現することで、送り手と受け手にとって何が大切かを考える。

(イ) 展開

① 絵をことばだけで伝えます。

ある図形を皆さんには見せずにことばの説明だけで伝えます。上手に伝えるにはどんな点に気を付けると良いか、また受け手としては何が知りたいか考えてみましょう。

② 教師と子どもたちで行う。

③ 子どもたち同士で行う。

④ 話し合う。

(ウ) 児童感想

- 言葉だけでは余りよくわからなかった。でもためになったし、言葉で説明するのも良くなったと思う。
- 耳だけで聞くだけだと必ず解らない所があることがわかりました。相手に言葉で難しいことを言うのが難しかった。よく聞くことをこれから気を付けようと思いました。

エ メッセージがうまく伝わらない理由を考え、よい方法を考える。(わたしが見ました!)

(ア) ねらい

メッセージをうまく伝えるためにはどんな点に注意を払えば良いかを知る。

(イ) 展開

① ある出来事を他の人にうまく伝えるには、ど

んな点に注意を払えばいいでしょうか。

② ある事件を目撃した人が、警官にその事件の様子を知らせます。警官はそれを聞いて、報告書を作ります。事件のあらましが上手に伝えられるでしょうか。

- ・ 2人組をつくる。それぞれ警官と目撃者となる。
- ・ 警官にワークシートを渡し、目撃者に廊下へ出るよう言う。

③ あなた方目撃者にこれから絵を見せます。よく見て下さい。そしてどんな事件であるのか、見たまを警官に説明して下さい。

- ・ 1分間見せたら絵はしまう。
- ・ 目撃者はペアの警官に話す。警官は報告書を作成する。

④ 「報告書」ができれば、もとの絵と比較してみましょう。ペアで振り返る。

⑤ 役割を交換し別の事件でもう一度実践する。

(ウ) 児童感想

- 見たものを言葉で説明するのはむずかしかった。字を一つまちがえただけで大分ちがった。でもだいたいのことはわかった。でも、やっぱり細かいところまでは、伝えられなかった。
- ちゃんと特徴などを詳しく伝えないとされた相手も間違えて聞いてしまい、それぐらい相手に伝える言葉は重要なんだとよくわかった。伝えるのはその言葉に重要な手が入っているから緊張して言っていた。伝えられるのは、よく聞いて書かないといけないし聞き間違えてもいけないから両方とも重要だとよくわかった。

(2) 対人関係ゲーム

ア くまがり1 7月12日

ひたすらじゃんけん・じゃんけんボーリング・カモン・くまがり

(ア) 児童作文

- あと少し  
「はじめ。」みんないっせいに動きだす。ぼくは、ボールのすぐそばにいた。ちよつと近づいてった。「あと少し」でもきじにばれた。急いで逃げた。「あぶなかった」ボールはとれなかった。でも勝った。
- 「わあー」  
「わあー」とわたしは、ひめいをあげて、逃げ出した。今までの遊びで、こんな大声を

出したのは初めてだった。きつねから逃げていてとても大変だった。サッカーゴール前のじん地にいると、きつねがおそってきて、ボールをとってしまいそうだった。このゲームは、チームプレイのあるゲームなんだなあと思った。とても楽しかった。

イ くまがり 2 10月17日  
じゃんけんボーリング・くまがり

#### (ア) 児童作文

##### ○ 凶暴なクマ

「タッタッタ」ぼくは、にげていた。きつねだったからクマから逃げていた。最初は敵が少なかったから選んだのだがそれが裏目に出た。自分の出せる、スピードを全開まで出した。走ることを考えた。「つかまりたくない。」と思った。しかし、それだけに気をとられてもう1匹のクマに気づかなかった。「パン」つかまってしまった。

##### ○ 「えっみんなー。」

今、くまがりの真っ最中だ。わたしは宝を守る仕事をしている。一気に、敵が、わたしたちのじん地に突撃してきた。三種類、全部の動物が来たからじん地にいたほとんどの人が、走って行ってしまった。宝を守る人は、5人くらいいたのに、私以外全員いなくなってしまった。そのすきに、敵の人が宝を取って負けてしまった。残念だった。

ウ くまがり 3 11月13日 (対象：親子)  
ひたすらじゃんけん・あいこじゃんけん(グループ・個人)・フラフープ(グループで一緒に持ち上げる・くぐる)・くまがり

#### エ 教師のまとめ

対人関係ゲームでは、1回目は、勝ち負けなどの単純な結果について感想を書いている児童が多かったが、2回目になると、友達との関係でうまくいったとか、連携にやられてしまったというような自分以外の人との関係について目が向いている。特に1回目「あと少し」という作文では、自分の位置が中心の作文であるが、2回目に「凶暴なクマ」と題して書いた作文では、自分と相手との関係に第3者がかかわってきたことでチームの連携に目が向いてきている。この様子を見ると協力して戦うことの難しさと楽しさを体験できるこのゲームの有効性を感じた。

参加した保護者と見ていた保護者があった。見ていた人の中には、家庭に帰ってからくまがりの

ルールを詳しく子どもに聞いた方が数名いたようだ。児童が意欲的に活動している様子に関心を示してくれたようである。

## VI まとめと今後の課題

### 1 人間関係づくり

クラスに対して、コミュニケーショントレーニングなどのスキルの実施を試みたが、児童は、それぞれのトレーニングに対して前向きに考えることができ繰り返し実施することで、友達との対応がややスムーズにできるようになったようである。それは、年度初め、何かにつけてトラブルを起こしていた男児数名がどちらかというところでは、仲良く遊んでいることが目につくことでも伺える。又対人関係ゲームを通して大勢の友達と遊ぶことの楽しさを味わい、協力することのおもしろさを体験し、友達との垣根が若干低くなってきたようにも思われる。運動会練習では、男女を問わず協力して準備をしたり練習に取り組んでいた姿がとてもほほえましく見受けられた。

言おうとしていることはあるのだが、話の要点をまとめることや、どこから手順よく話すことがよりよいのか国語の学習とかかわった部分での習熟が今後の課題といえる。

### 2 保護者との連携

保護者に対しての子育て支援セミナーの開催には56件中36件の参加があった。用事があって来校中に子どもの担任と廊下ですれ違っても保護者の方からはなかなか声をかけない。このような保護者であるため、折に触れての励ましや声かけも必要な要素であるが、親子料理教室で試行錯誤しながらかわりを考えている保護者を見ると子育て支援セミナーが活かされていることも実感できた。このような問題提示、体験活動を繰り返し実践することで保護者のネットワークもよりよいものとなっていくと考える。

〈主な参考文献〉

- ・亀口 憲治他多数著 『実践ワークブック 不登校問題課題解決支援資料 改訂版』 群馬県総合教育センター(2003・2004)
- ・安達 昇他2名著 『みんなとの人間関係を豊かにする教材55』 小学館(2003)

(担当指導主事 井上 淑人)